

緊急事態が発生！

2018年12月下旬、八尾市立総合体育館宛に差出人不明の脅迫状が届いた。翌月6日には年賀交

礼会（例年約700人参加）、14中止か開催か。だが、中止という選択肢はない。予定していた総合体育館で開催するのか、それも会場を変更するのか。急ぎ決定する必要があった。来場者の安全確保が最優先であ



本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第13回

緊急の変更対応、日頃の力が試される！

会場を変更し、円滑に開催

結論から言えば二つの行事は円滑に開催できた。それぞれの行事について簡単に説明する。

一つめの年賀交礼会は、仕事納めの日に意思決定、仕事始め直後に当日を迎えるという究極のスケジュールだったが、担当部局に対して急ぎ応援体制を組み、対応。成人式に比べると小規模で、アクセス手段確保というプロセスはな

く、会場変更を短期間で実現するために必要な取組みを実践することになった。

二つめの成人式は規模が大きく、新成人にとっては人生に一度限りの晴れ舞台。場所変更の意思決定後、来場予定者への会場変更の連絡、運営に携わる関係者との調整、成人式会場への新成人のアクセス手段確保、近隣への対応、会場設営、当日の運営、会場撤収など、年賀交礼会よりも難易度が高いプロセスが待ち受けていた。

「三方よし」の力で

改めて行事の舞台裏でのプロセスを振り返ってみると「三方よし」

だった。円滑に気持ちよく二つの行事を成功できたのは、何よりも市民の理解・協力である。

そのうえで、第一は市役所組織内の役割分担・部局間連携が機能し、職員力を発揮できたことが挙げられる。成人式ではプロセスを分解して各部局に割り当て、各部署内では特別体制を組んで「新成人を祝うために絶対に成功させろ」という機運が高まった。

第二は官学連携が機能していたことだ。変更後の会場である大阪経済法科大学と八尾市は包括連携協定を締結しており、日頃からの関係性のもと、快く大学体育館を会場として提供いただき、当日は大学職員も出勤してご協力いただいた。

第三は公民協働が機能していたことだ。新成人が会場へアクセスする手段はシャトルバス。複数のバス事業者が全面的に協力してくださり、定刻に開始することができた。当日の運営にご協力いただいた市民団体の力は大きい。

危機を乗り越える力は災害時と同じで、日頃の業務から組織力を高めておくことが大切だ。

日に成人式（新成人約3000人）を予定している会場だということに。さて、どうするか。愉快犯なのかかもしれない。しかし、市民、利用者が被害に遭うようなことがあってはいけない。

ることから、二つの大切な行事を、年賀交礼会は市役所本庁舎1階に、成人式は大阪経済法科大学花岡キャンパスを会場に、開始時間を変えずに、場所を変更して実施することになった。時間が無い。